

## (1) 茶

### ア 各病害虫の防除

網もち病

白星病

白紋羽病

炭疽病、もち病

コミカンアブラムシ

ツマグロアオカスミカメ

チャドクガ

チャトゲコナジラミ

チャノホソガ

チャノミドリヒメヨコバイ

ハマキムシ類

ハダニ類

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### 網もち病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 秋芽が繁茂する生育後半の多湿条件で発生が助長されるため、秋芽萌芽期から薬剤を7～10日おきに2～3回散布する。

### 白星病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 肥培管理をよくし、樹勢を良くする。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 1番茶の開葉期に、薬剤を7～10日おきに2～3回散布する。

### 白紋羽病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 早期発見に努め、小面積のうちに[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照し防除する。
- 2 ベンレート水和剤で苗木根部浸漬する。

### 炭疽病、もち病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 梅雨時や秋雨時に発生が多くなる。通風や日当たりを良くする。
- 2 新芽発生初期の予防防除を徹底する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【炭疽病】](#)・[【もち病】](#)

- 1 2番茶の開葉期に下記薬剤のいずれかを7～10日おきに2～3回散布する。

### コミカンアブラムシ

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期に薬剤を散布する。

### ツマグロアオカスミカメ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 茶園周辺の雑草に移動して繁殖するため、周辺雑草(アレチノギク、ヨモギ、ギシギシ等)の除去に務める。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生時に薬剤を散布する。

### チャドクガ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 若齢幼虫の群集を見つけ次第捕殺する。
- ※虫には直接皮膚が触れないようにする。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生時に薬剤を散布する。

### チャトゲコナジラミ

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 成虫は葉裏に産卵し、ふ化した幼虫はそのまま葉裏に固着する。すす病を併発する。

- 2 茶以外に、ヤブツバキ、サザンカ、サカキ、ヒサカキなどに寄生する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 多発した場合には、深刈りせん枝により卵・幼虫の寄生部位である葉を完全に除去する。刈落としたせん枝枝条は、適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生時に下記薬剤のいずれかを散布する。すそ部から茶株頂上部に向けて斜め上方に薬液を散布することで防除効果が向上する。
  - 2 秋冬期に薬剤を散布する。
  - 3 薬剤散布前に整せん枝やすそ刈りを行うと、密度低下や防除の効率化が図れる。
- ※マシン油乳剤は、銅剤との近接散布で薬害を生じるおそれがある。

## チャノホソガ

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 葉巻が形成されると薬剤がかかりにくくなるため、発生時に薬剤を散布する。

## チャノミドリヒメヨコバイ

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 新芽の展葉期に発生すると被害は大きい。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生を見たら葉裏にも薬液がかかるように薬剤を散布する。

## ハマキムシ類

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を活用した防除を行う。
- 2 発生初期に薬剤を散布する。

## ハダニ類

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を活用した防除を行う。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※ハダニ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。

- 2 気門封鎖剤を活用した防除を行う。
- 3 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同群の薬剤の使用は年1回とする。